

上映映画のご紹介

能代山本広域交流センター多目的ホール

12.1(日) 10:00~11:50(110分) **用心棒** [1961年 東宝=黒沢プロダクション] (白黒)

脚本・監督 黒澤明 脚本・製作 菊島隆三 [出演者] 三船敏郎、仲代達矢、司葉子、山田五十鈴

ダシール・ハメットのハードボイルド小説『血の収穫』を大胆に翻案、西部劇の手法を取り入れながら、三船敏郎演じる浪人の痛快無比な姿を描いた黒澤明による大ヒット時代劇。舞台は上州、かつて絹市で栄えた宿場町は、清兵衛一家と丑寅一家との抗争で、無法地帯と化していた。そんな宿場に流れ着いた凄腕の浪人、自称・桑畑三十郎は、両家の親分に自らを用心棒として売り込む…。撮影は、東宝撮影所横の農地に巨大なオープンセットを建て、『羅生門』(1950年)以来の黒澤組となった宮川一夫カメラマンが、複数のカメラと望遠レンズを駆使し、比類のない娯楽活劇に仕立て上げた。海外でも評判を呼び、盗作騒ぎも起きた『荒野の用心棒』(1964年、セルジオ・レオーネ監督)は、主演クリント・イーストウッドをスターへと押し上げるとともに、イタリア製西部劇(マカロニ・ウェスタン)のはしりとなった。「キネマ旬報」ベストテン第2位。

12.1(日) 13:00~13:30 **加藤正人講演『黒澤明作品の魅力について』**

黒澤明監督は、日本を代表する大監督であり、世界中の監督の尊敬を集める大巨匠です。黒澤監督の父親は秋田県出身の軍人ですから、ルーツは秋田です。今回は『用心棒』『生きる』『天国と地獄』の3本の黒澤作品が上映されますので、映画を鑑賞する上での参考にしてもらえるようなお話をさせていただきます。黒澤作品の魅力を知ってもらいたいと思っております。

12.1(日) 13:40~16:03(143分) **生きる** [1952年 東宝] (白黒)

脚本 橋本忍 脚本 小国英雄 脚本・監督 黒澤明 [出演者] 志村喬、小田切みき、田中春男、千秋実

それまで無気力に生きてきた一人の役人が、死という絶対的なものを目前にして、自分を見つめ直し、人間としての尊厳をとりもどしていく姿を描いた作品で、主役を演じた志村喬の〈ゴンドラの歌〉が感動的。胃癌であると知った男は、夜の街をさまよっては見知らぬ男と暴飲に明け暮れるが、部下の言葉により生き方を変えはじめる。映画の途中で場面が突然男の通夜へと変わり、参列者の回想により、男のそれまでの行動が断片的に描かれるという、特異な物語構造も注目を集めた。第4回ベルリン映画祭でのベルリン市政府特別賞受賞や、「キネマ旬報」ベストテン第1位など国内外で高い評価を得た。黒澤明と脚本家の小国英雄が初めて組んだ作品でもある。

12.1(日) 16:15~18:38(143分) **天国と地獄** [1963年 東宝=黒沢プロダクション] (白黒)

脚本 小国英雄 脚本 菊島隆三 脚本 久板栄二郎 脚本・監督 黒澤明 [出演者] 三船敏郎、仲代達矢、香川京子、山崎努

この作品は、アメリカの推理作家エド・マクベインの「キングの身代金」を映画化したものであるが、連れ去る子供を取り違えたとしても、その犯人の脅迫は成立するとのヒントを借りただけで、ほとんどのトリックは黒澤をはじめとする脚本家たちのアイデアである。この映画のクライマックスは二つある。一つは特急こだまのトイレの窓から身代金の3000万円を投げ出す場面。これは実際運行される車両を借り切って、数台のカメラで同時に撮影された。もう一つは、極刑を課すために犯人を泳がせ、新たな殺人現場におびき出す場面である。『用心棒』(1961)や『椿三十郎』(1962)で、これまでの時代劇にはなかった迫力を演出した黒澤であったが、この作品でも、サスペンス映画に斬新な演出を試みている。〈天国〉に住む富豪と対照的に〈地獄〉に住む青年医師を演じた山崎努は、文学座の新人俳優であったが、この作品で一躍注目を浴びた。「キネマ旬報」ベストテン第2位。

能代市立能代図書館集会室

12.1(日) 11:00~11:50(50分) **児童向け短編映画 藤城清治影絵2編と人形アニメ**

クリスマスの鐘 (2008年)

色鮮やかな影絵をもとに制作されたデジタル絵本

マッチ売りの少女 (1969年)

影絵で表現するのにふさわしいアンデルセンの名作

大男とクリスマスツリー

今でもドイツの子供に人気のおじいさんの人形アニメ



12.1(日) 14:00~16:10(130分) **素晴らしき哉、人生!** (1946年 アメリカ)

クリスマス・イヴに奇跡が起こる、生きることは素晴らしい! 誠意をこめて生きて来た主人公ジョージ。だが、すべてが裏目に出て絶望し、自殺しようと思ひ詰める。そんな時、200歳になっても翼をもらえない二流の天使とめぐり逢う。天使はジョージの人生を振り返り、その意義を示してみせる……。ユーモアとペーソスにファンタジーをまじえ、フランク・キャブラ監督が善意を高らかに謳いあげた永遠の名作。ジュームズ・スチュワート主演、第4回ゴールデングローブ賞 監督賞